

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	学術交流ネットワーク推進事業	会計	一般会計	事業No.	754	施策順No.	62-005
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり	課等名			生涯学習・スポーツ課		
施策	62 地域資源の資産化	事業期間	開始	19	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	地域内の学術研究団体						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		参加団体数(団体)		20	20	20	25		
	意図	人材育成や地域資源の有効活用に関する研究実践活動を行ってもらう 学術交流ネットワークを構成する							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		研究団体連絡会議(回)	0	3	0	3	0	3	D
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		研究団体の連絡会議を開催することができなかった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	伊那谷地域研究団体連絡協議会、飯田女子短期大学、いいだゆめみらいICTカレッジ、飯田市教育委員会等が人材育成のための交流ネットワークを構成する。 地育力に基づく人材育成プログラムを策定し、相互に活用する。人材育成講座は各組織が独自に展開し、全体コーディネートと情報発信を行う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 ネットワーク構築検討会議 小中学校の総合的な学習の授業等で活用できる地域・郷土学習の人材リストを作成する 2 研究団体紹介機会の提供 飯田市美術博物館におけるポスターセッション(伊那谷地域研究団体連絡協議会3団体)	1 開催数 2 提供数	1 0回 2 3団体
23年度実施計画	ネットワーク構築検討会議 小中学校の総合的な学習の授業等で活用できる地域・郷土学習の人材リストを作成する 小中学校へ紹介し活用を図る	開催数	3回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源					
	計(A)		0	0	0	
	正規職員所要時間			30		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			107		
	トータルコスト A+B			107		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・地域研究団体連絡協議会は18年7月の総会で伊那谷学の推進を掲げている。地元学の推進は、学術研究と人材育成、各研究機関の活性化を意図したもので、そうした意味からも関係者の期待は高い。 ・議会から、「ネットワーク作りが目的となっている、意図と実施主体を明確にして再構築」「民間主体で事業推進を図る検討も必要」の提言をいただいた。 ・基本構想基本計画推進委員会から、早期に取り組みを行われたいと提言をいただいた。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①地域資源の価値が顕在化され高まる ②市民に認知される	施策の成果指標又はムトス指標	活用できる状態の整った地域資産 地域資産を知っている市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	高度な研究を行っている団体と連携していくことにより地域資産の共有化につながる。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	これまで、各研究団体と関連のある教育委員会の各部署での検討会議を実施してきたが、具体的な事業展開には至っていない。		
	後期に向けた課題	それぞれの研究団体が独自で研究発表や講座を開催しており、多くの団体が「伊那谷地域研究団体連絡協議会」に所属している。改めてネットワークを構築していく必要があるか再検討して方向付けしていく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	0予算事業のため、これ以上の削減は難しい。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	飯田市美術博物館におけるポスターセッションは各団体が実施しており、市は美術博物館の会場を提供している。		
	後期に向けた課題	研究団体が情報発信する機会を提供し、それぞれの活動を支援していく。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	研究団体の活動については、それぞれの団体が主体となって講座等を開催している。市は、活動発表の場の提供、研究活動の支援を行っている。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	伊那谷地域研究団体連絡協議会に所属する団体が多く、ネットワークを構築するところまで至っていない。研究団体においては会員の高齢化、重複化が見られる。		
	後期に向けた課題	専門的な研究を行う団体であり、地域資源の共有化につながる活動を行っている。研究団体のネットワークを構築する以外に、地域資源を活用したプログラム提供や人材リストの作成等について検討していく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--